

きのくに自主防災



第10号（平成23年3月号）

＜発行元＞

和歌山県自主防災組織情報連絡会事務局

（県庁総合防災課内）

〒640-8585和歌山市小松原通1-1

TEL：073-441-2271

平成23年3月11日14:46東北地方太平洋沖地震が発生しました。未だ被害の全容が判明しない未曾有の大災害となってしまいました。本県にも大津波警報が発令され、物的被害も出たのですが、東北3県を中心とした、あの惨状を目の当たりにすると言葉を失います。亡くなられた方には謹んでご冥福をお祈りいたします。

岩手県・宮城県は、防災意識も被災の歴史も本県以上と考えて良いでしょう。我々は防災に関わりを持つものとして今、何を考えればいいのでしょうか。想定外があり得ることを肝に銘じ、自主防災組織で地域防災力を上げる取り組み以外に、正解は無いのかも知れません。

平成23年3月28日

和歌山県 総合防災課長 南方 大

4県連携自主防災組織交流大会が開催されました。

平成23年1月23日（日）三重県、和歌山県、徳島県、高知県の自主防災組織の代表者が参加して「4県連携自主防災組織交流大会」が和歌山県有田市で開催されました。

「4県連携自主防災組織交流大会」は、「東南海・南海地震」により甚大な被害が予想される4県の共通課題である自主防災組織の育成について、4県の自主防災組織同士が交流を図るとともに、今後の継続的な活動を行う中での有用な事例や先進的な事例を学ぶことで、自らの取り組みに資することを目的に開催しています。

一昨年12月の高知市での大会に続いて、今回が6回目の開催です。この日は、各県から1名ずつの自主防災組織の代表者による活動事例の発表等がなされました。

その内容を紹介します。

1. 事例発表

『子育て応援団！！0.1.2.3サークル』

三重県鳥羽市

子育て応援団！！0.1.2.3サークル代表

山本道子 氏

三重県鳥羽市は、三重県中東部、志摩半島に属する。市域全体が伊勢志摩国立公園に指定されており、私たちのサークルは、0～3歳

の子どもとその保護者を主な対象として、子育て応援活動を行っているボランティア団体です。

ひとりの子どもの命も、その家族の命も失いたくないという母の願いから、親子防災教室を2ヶ月に一度開催し、一般の防災知識では補いきれない、子どもを抱えた家庭における防災対策や避難方法、災害時に子ども達が自分の命を守るための方法について、楽しく学びながら身につける防災啓発活動を実施。

- ・ 身を守るダンゴムシのポーズの練習
- ・ 防災紙芝居
- ・ 新聞紙スリッパづくり
- ・ たまごの殻ふみ体験
- ・ 非常食の調理体験
- ・ 毛布での担架づくり
- ・ 町歩き(自分達の町を歩いて危険を知る)等



『橘町地域自主防災活動

(東・南海地震に備えて)』

徳島県阿南市橘公民館 館長 山本 健 氏

橘町は橘湾に面しており、過去の大地震では、半数以上の世帯が床上以上が浸水するなどの被害を受けており、住民の関心は高く、平成15年8月に1300世帯・3400人の地域ぐるみで自主防災組織を立ち上げた。

町を20地域に区分し、連絡責任者(連絡員)は独居老人宅等を訪問し、家具等の止め金具付けや家の耐震強化指導を、地域の柱(地域のリーダー)は避難路・避難場所の確保・整備を行っている。

また、津波を想定した避難訓練や防災避難地の草刈りの実施や、市主催の防災訓練等へは積極的に参加し、平常時から地域の防災意識の高揚に努力をしていきたい。

(地域自主防災組織の立ち上げ)



『香南市東上野地区の取り組み』

高知県香南市

東上野東地区自主防災組織会長 堅田静夫 氏

東上野東地区は、平成18年3月に5町村が合併し誕生した香南市の北部に位置し、軟弱地盤ではなく津波の影響も無いと考えられる。

新興住宅が増え、地域のつながりが薄れてきている。自主防災組織の立ち上げ(平成20年9月14日設立)と並行して、地区の課題である「つながりの薄れ」の解決に向け、勉強会・検討会をスタートした。自主防災組織活動としては、起震車の体験・救命救急講習や炊き出し訓練等を行い、組織の立ち上げに取り組むと共に、町づくり活動として市の助成事業を活用し、休耕田を借り上げ農園を開設し、コミュニティの場として作業・収穫等を通じ、子ども・家族が集まり会話が生まれ、課題となっていた「地域のつながりの薄れ」の解決につながり、自主防災組織の活動の活性化につながった。

(防災訓練の一コマ)



『安心して暮らせるまちづくりのために』

和歌山県橋本市高野口町

向島自主防災会会長 西 皓安 氏

橋本市では、平成22年8月に76団体が橋本市自主防災連絡協議会を結成し、防災訓練等に熱心に取り組んでいます。

向島自主防災会は、自助・共助・公助を目的に地域住民が安心して暮らせる町づくりのため、平成19年10月に結成され西東11自治会で構成され、

ソフト面で

- ① 防災知識取得のため部協会へ参加
- ② 家庭内でも取り組める防災会議の開催
- ③ 各種団体等連携による若い世代の防災

サポーターの育成

ハード面で

- ① 備蓄倉庫の整備
- ② 防災活動に必要な資機材の購入
- ③ 各家庭に向けた住宅火災報知器の共同購入を目標にしている。

活動状況では、自主防災会組織緊急連絡体制の整備、自主防災会第1回セミナーの開催、情報・避難誘導訓練、給食給水訓練の実施、防災出前講座受講及び起震車の体験、災害医療ホーラム『防災井戸端会議』への参加、防災訓練・救出救援訓練等に参加や開催等を行っている。

参加者から、水道が止まったときの対応をどうするのか、アルファ米を家庭に備蓄してはどうか、井戸水の活用等について等の意見が出されるなど防災意識が高揚している。

これからは、個別に行ってきた訓練『避難誘導訓練』と『炊き出し訓練』を同時に行う『複合型訓練』として実施するなど、積極的に取り組んでいきたい。

全会員の目標として

『5つの・安全・安心の誓い』
 一会員 みんなで 防災準備一

1. 防災無線 情報 聞いて
2. いつも 防火に 気をつけて
3. 子ども 年寄り 一緒に避難
4. 救出 救護はみんなで協力
5. 楽しくみんなで給食 給水

以上5項目を目標として防災力の向上に努めて行きたい。

(弁当箱詰め込み作業)



2. パネルディスカッション

東南海・南海地震により甚大な被害が予想される4県（三重県・和歌山県・徳島県・高知県）の共通課題である自主防災組織の育成について、4県の自主防災組織同士が交流を図るとともに、今後の継続的な活動を行う中での有用な事例や先進的な事例を学ぶことで、自らの取り組みに資することを目的に、パネルディスカッションを開催。

コーディネーター

和歌山大学防災研究教育センター

特任准教授 照本清峰

コーディネーターから各パネリストに

- ① 実際に災害に遭ったときに、これまでの取り組みによってどのような効果が具体的に期待できるか
- ② 地域の多くの方々に、参加・参画してもらうためには課題があったか
- ③ 活動を継続していく中で、失敗などなかったか？ それをふまえて、どのように改善していったか？
- ④ 地域の課題をふまえて、今後、どのようなことをさらに実施していく必要があると感じているか？ 等について話を聞き、意見交換がなされた。

このような交流の場を通じて、お互いの情報を交換し、今後の対策に繋げていければ良いと思う。

また、地域ごとに抱えている課題は違うが、自分達の地域をよく知り、他の地域の事例を参考にしながら、自分達の地域に適した方法を探って行けばよいのではないかと。

県民減災運動を実施しています！

家庭でできる身近な防災対策が、地震の際に大きなチカラを発揮することをご存知でしょうか？

阪神・淡路大震災では、亡くなられた方の約8割が建物の倒壊や家具の転倒が原因でした。東南海・南海地震が起これば、地震により木造家屋の倒壊や家具の転倒が予想されるほか、その後発生する津波や火災により大きな被害が出ると懸念されています。皆さんの家の中での対策は万全ですか？

県では身近な対策に目を向けていただき、地震から身を守り迅速に避難するため、木造住宅耐震化・家具等の転倒防止対策・ブロック塀の安全対策を柱として、その普及啓発や防災教育等を通じ、各家庭での取組を支援する県民減災運動を実施しています。

1階は危険？

阪神淡路大震災では、古い木造家屋が数多く倒壊しました。その多くが2階が1階を押しつぶす形の『層破壊』であり、1階で寝ていた高齢者の被災が多くなった原因と報告されています。

家のなかは危険？

午前5時46分に発生した阪神淡路大震災、意外なことに亡くなった方のほとんどが午前6時00分までの十数分で命を落としています。その時間は多くの方が寝ていました。寝ているあいだに地震に襲われると、とっさに身を守ることができません。家の中で大きな地震に遭った場合、身の回りの家具や家電が凶器に変わるのです。

職場や学校は危険？

それでは、あなたの通う職場や学校はどうでしょうか？ほとんどの場合、新しい建物は耐震基準を満たしていて、古い建物も耐震補強が進められています。職場・学校・教室の備品はどれくらい固定が進んでいますか？

耐震工事って大変そう？

それでは以下に試算してみましょう
対象は昭和56年5月以前の木造の住宅です

単位：万円

	経費	補助金	摘要
耐震診断	4.4	4.4	耐震診断がまず始めの一步です
設計費	20	13.2	設計費の2/3 上限13.2万円
工事費	100	60	工事費の2/3 上限60万円
		11.5	国庫補助
合計	124	89.1	工事費の11.5%が国から補助されます
自己負担	35.3		

耐震改修工事における、ベストなアドバイスや改修プランの提案を行い、トータルでサポートする「耐震改修サポート」事業が、平成21年度から使えます。

家具の固定も大事なの？

そうです。建物が丈夫でも部屋の中に危険が潜んでいます。家具の固定は難しくありませんが、正しく行わないと効果が発揮されません。いろいろな方法の技術研修を無料で行っていますのでご利用ください。

ブロック塀は安全なの？

地震でブロック塀が倒壊して、通行人が押しつぶされたり、避難路をふさいでしまう恐れがあります。ブロック塀が古い場合は、補強工事を行ったり、生け垣に置き換えたりするなどの安全対策を検討する必要があります。

家具の転倒防止講習会を実施しています！

大きな地震が発生すると家具は凶器と化します。家具や家電などの正しい固定方法や、ガラスの飛散防止方法の講習会を行っています。

- ・県内在住、通勤通学しているグループで申し込んでください。
- ・日時は原則として、ご希望に応じます。
(土、日、祝日、夜間可)
- ・ご希望の会場にお伺いします。
(講師の派遣や、配付資料等の費用は当方で負担します。ただし、会場の手配やそれに係る費用については申込者の負担となります)
- ・お気軽にお問い合わせください。



(ベーシックコース 講義の様子)



(エキスパートコース)
(ガラスの飛散防止フィルム貼り)



(エキスパートコース)
(トラックの上での家具の固定実習)

2つのコースより選択します

- ・ベーシックコース { 15名以上
(所要時間：約1時間30分) 講義形式(実習なし)
- ・エキスパートコース { 10名以内
(所要時間：約3時間) 実習あり

申込先
熊野小型運送株式会社
電話：073-428-3152

問い合わせ先
和歌山県危機管理局総合防災課防災企画班
電話：073-441-2276

活動事例募集中！（地震・津波・洪水等の過去の災害の体験談も募集しています！）

地域で防災活動に取り組まれている皆様の活動事例を本会報誌で紹介していきたいと考えています。また、昭和の南海地震などの体験談も語り継いでいきたいと考えています。つきましては、活動事例等をご紹介いただける方がございましたらメール、FAX、郵送にて下記までご送付願います。

なお、紙面の都合により、ご提供いただいた方すべての原稿を掲載できない場合や原稿を修正させていただく場合もございますが予めご了承ください。字数等については、800～1200字程度でご検討いただければ幸いです。また、活動の写真もご提供いただけましたら、原稿とともに掲載したいと考えています。

記

- 1 提出先 和歌山県自主防災組織情報連絡会 事務局（和歌山県危機管理局総合防災課内）
- 2 提出方法 E-mail：e0114001@pref.wakayama.lg.jp FAX：073-422-7652
郵送：〒640-8585 和歌山市小松原通1-1 和歌山県庁危機管理局総合防災課 行き

***活動事例を会報誌に掲載させていただく場合に、県総合防災課からご連絡させていただく場合もございますので、住所、氏名、電話番号を必ずご記入のうえ、原稿をご提供いただきますようお願いいたします。**

【お問い合わせ先】 和歌山県危機管理局総合防災課 防災企画班 TEL：073-441-2271

津波の心得

地震が発生し、津波警報・注意報が発表されたとき、1人ひとりが慌てずに適切な判断・行動をとることが重要です。正しい知識を身につけ、落ち着いて行動できるよう日頃から心構えをしておきましょう。

- ① 災害時の避難場所や避難路を決めておく。
- ② 強い地震や弱くても長い時間ゆっくりとした地震を感じたとき、海浜から離れ、安全な場所に避難する。
- ③ 地震を感じなくても、津波警報や注意報が発表されたときは、海浜から離れ、安全な場所に避難する。
- ④ 地震を感じたときは、テレビ、ラジオなどで正しい情報を入手する。
- ⑤ 津波は繰り返し襲ってくるので、警報、注意報が解除されるまで気を緩めない。
- ⑥ 低い津波であっても大人の足をすくうことがある。また、漂流物により被害を受けることがある。
- ⑦ 津波は引き波(海水が沖に引くこと)からくるとは限らない。

災害に備えて、防災わかやまメール配信サービスに登録しよう！

防災わかやまメール配信サービス

気象情報や被害情報、その他緊急情報などを電子メールで配信するサービスです。

警報・注意報 土砂災害警戒情報 台風情報 竜巻注意情報 地震情報 津波情報 雨量情報 河川水位情報 ダム放流情報 避難発令情報

■登録の流れ

1.空メール送信

[regist@bousai.pref.wakayama.lg.jp]

上記アドレスにそのままメールを送信してください。(件名・本文は不要)

右のQRコードを携帯電話で読み込んでメールを送信することも可能です。



2.返信メールが届きます

登録用URLが記載されたメールが返信されます。



3.登録

登録用URLにインターネット経由でアクセスし、情報を登録します。



4.登録完了

登録後に登録完了通知が届けば登録は完了です。



※登録を行う前に[bousai.pref.wakayama.lg.jp]ドメインからのメールを受信できるように設定してください。設定変更については、各プロバイダーにお問い合わせください。

防災対策についてもっと詳しく知りたい、勉強したい、行政の行っている対策も知りたいと思っているけど、一体どこに資料があるのだろうか？ そんな方に参考となる資料のある場所を紹介します。

- ・和歌山県 ホームページ「防災わかやま」 <http://www.pref.wakayama.lg.jp/bousai/index.html>
- ・国の施策や各種調査結果、自主防災組織などについて知りたい方は
 - 内閣府防災情報ホームページ <http://www.bousai.go.jp/index.html>
 - 消防庁ホームページ <http://www.fdma.go.jp/>
- ・地震などの研究結果や観測等について詳しく勉強したい方。
 - 地震調査研究推進本部ホームページ <http://www.jishin.go.jp/main/index.html>

※地震調査研究推進本部とは・・・阪神・淡路大震災は我が国の地震防災対策に関する多くの課題を浮き彫りにしました。それを踏まえ、全国にわたる総合的な地震防災対策を推進するため、地震防災対策特別措置法が議員立法によって制定されました。地震に関する調査研究の成果が国民や防災を担当する機関に十分に伝達され活用される体制になっていなかったという課題意識の下に、行政施策に直結すべき地震に関する調査研究の責任体制を明らかにし、これを政府として一元的に推進するため、同法に基づき文部科学省に設置された政府の特別の機関です。